

2024 年度 講義

CoSTEP 専任教員だけでなく、多彩な外部講師をお招きして、現在進行形の科学技術コミュニケーションに関する 27 コマの講義を提供します。

奥本 素子 北海道大学 CoSTEP 部門長 / 大学院推進機構 准教授 科学技術コミュニケーションの入口	種村 剛 北海道大学 大学院教育推進機構 リカレント教育推進部 特任教授 コミュニケーションを改めて考え直す	隈本 邦彦 江戸川大学 メディアコミュニケーション学部 教授 社会の中での科学技術コミュニケーターの役割：科学ジャーナリストを例に
朴 炫貞 北海道大学 CoSTEP 特任講師 実践入門	早岡 英介 北海道大学 CoSTEP 客員教授 / 羽衣国際大学 教授 映像メディアによる科学技術コミュニケーション	古澤 正三・池田 貴子 北海道大学 CoSTEP 特任講師 伝えるプレゼンテーション
大内田 美沙紀 北海道大学 CoSTEP 特任助教 サイエンスイラストレーションで伝える科学	宮本 道人 北海道大学 CoSTEP 特任助教 空想科学コミュニケーションで 告げた未来を破壊せよ	三上 直之 名古屋大学 大学院 環境学 研究科 教授 ミニ・パブリックスと 参加・熟議のデザイン
森岡 督行 株式会社森岡書店代表・文筆家 コミュニケーションの要素について	小川 仁志 山口大学 国際総合科学部 教授 哲学思考の方法及びその伝え方 ~ 哲学カフェやメディアでの実践から ~	前田 至剛 追手門学院大学 社会学部 准教授 社会問題 / 社会関係資本を生み出す SNS
池田 貴子 北海道大学 CoSTEP 特任講師 感情的理解のためのアプローチ	齋藤 智也 国立感染症研究所 感染症危機管理研究センター 長 感染症危機管理とコミュニケーション	瀬名波 栄潤 北海道大学 文学研究院 教授 SOGIESC の世界
佐藤 岳詩 専修大学 文学部 哲学科 准教授 身体や心に介入する技術に対する倫理	キム・ウォニョン 作家 自動化社会における障害者の体	鈴木 エイト ジャーナリスト・作家 ファクトに基づく調査報道の限界と可能性、ジャーナリズムの本質とは
大浦 宏照 NPO 法人 市民と科学技術の仲介者たち 代表理事 科学技術にまつわる不安との付き合い方	加部 一彦 埼玉医大総合医療センター 新生児科 教授 医療現場が直面するコミュニケーションの課題について考える	豆腐 (山口真幸) 学問バー Kisi 店長 逆になんでうまくいったと思います？ : みんなで作る「学問バー試論」
若宮 正子 一般社団法人メロウ倶楽部 理事 / 熱中中学校 教諭 / 公益社団法人 NEXT VISION 理事 / IT イベントジェリスト すではじまっている未来と日本の今	満島 てる子 7丁目のパウダールーム 店長 / さっぽろレインボープライド実行委員会 副実行委員長 性の多様性と科学：セックスは、つねにすでにジェンダーである」こと	



6月1日
塩瀬 隆之
 京都大学総合博物館 准教授
 博物館・科学館において最先端の科学技術と社会受容をいかに展示するか



10月5日
永田 徳子 tokko
 株式会社レーマン 代表取締役 / 獣医師
 日本でメディカル・サイエンスイラストレーターを職業として成り立たせるために



12月21日
五箇 公一
 国立環境研究所 生態リスク評価・対策研究室長
 生物多様性異変と迫り来る危機



2025年1月25日
須貝 駿貴
 QuizKnock / 国立科学博物館認定サイエンスコミュニケーター
 サイエンスを届けるメディアとしてのインフルエンサーモデル

(敬称略)

受講コース

「本科」と「選科」、どちらも5月開講、3月修了。10ヶ月間のプログラムです。北海道大学の学生に限らず、どなたでも受講可能です。

※ 受講にあたっては選考があります。詳細な応募条件についてはCoSTEP公式サイトに掲載中の「募集要項」をご確認ください。

本科

週2回の通学でじっくりと総合的な力を身につけます。密な指導とグループワークを通して、実践力を養うことのできるコースです。

講義 **土曜日 13:00~14:30**
 CoSTEP 専任教員と外部講師による講義。 ※ 詳細は左頁

演習 **水曜日 18:30~20:00**
 科学技術コミュニケーターとしての活動に必要な表現技法や対話スキル、論理的思考法などを身につけます。

実習 **土曜日 10:00~12:00**
 社会での実践をとおして、企画運営の力と高い専門スキルを身につけます。

- 対話場の創造 実習
- ライティング・編集 実習
- グラフィックデザイン 実習

※ 応募時にいずれかひとつを選択

選科

オンラインでの学習活動と3日間の集中演習を組み合わせた、遠方にお住まいの方や平日の通学が難しい社会人でも受講しやすいコースです。

講義 **土曜日 13:00~14:30**
 CoSTEP 専任教員と外部講師による講義。 ※ 詳細は左頁

集中演習 **事前学習と3日間の集中演習**
 科学技術コミュニケーターとしての活動に必要な実践スキルを身につけます。

- A サイエンスイベント企画運営
- B サイエンスライティング
- C インフォグラフィック制作

※ 応募時にいずれかひとつを選択

受講料

北海道大学に在学中の方	本科 20,000 円	選科 10,000 円
一般の方	本科 48,000 円	選科 23,000 円

※ 別途、教材費などを実費でお支払いいただきます。
 ※ 北海道大学 DX 博士人材フェローシップの採用選考にあたっては、CoSTEP の受講生・修了生であることがプラスに評価されます。



2024年度受講生の募集は、4月1日 スタート！

募集期間 2024年4月1日(月)~4月15日(月) 正午 〆切

説明会 3月21日(木) 18:30~20:30 オンライン(修了生座談会あり)
 3月23日(土) 説明会の収録動画の一部を配信開始



※ 詳細はCoSTEP公式サイトに掲載中の「募集要項」をご確認ください。
 ※ 応募に際しては、説明会への参加を強く推奨します。

開講式特別プログラムを一般公開します！

2024年度 CoSTEP 開講式特別プログラム

「安彦良和、歴史漫画を語る。」

講師 **安彦 良和 氏** (漫画家 / アニメーター / 監督)
 日時 5月11日(土) 13:30~15:10
 会場 北海道大学 フロンティア応用科学研究棟



受講案内

2024 - 2025

CoSTEP

北海道大学
 科学技術コミュニケーター養成プログラム

ごあいさつ



北海道大学 大学院教育推進機構
オープンエデュケーションセンター
センター長／
理学研究院 教授

松王 政浩

21世紀になる前、科学技術哲学の分野では、人間が科学技術をコントロールするのではなく、そのうち科学技術が人間をコントロールするようになるという「未来図」について、盛んに議論されていました。しかし生成AIの普及とともにAIが第3.5世代に突入し、またデータ管理による「安全安心な」社会の実現をはじめ、さまざまな科学技術の「上」に社会が構築される様相が色濃くなってきた今日、これはもはや未来ではなく、現実私たちが置かれた状況だと言えるかもしれません。科学技術コミュニケーションは、科学技術と社会の「間」を取り持つものという理解が、かつて一般的でした。けれども、科学技術と社会がこれまでにない一体化しつつある中で、科学技術コミュニケーションの捉え方も大きく変化する必要があります。CoSTEPはそうした新世代のコミュニケーションの開拓に挑みます。ぜひみなさんも、この変革期の大きな挑戦にご参加ください。



北海道大学総合博物館 教授

小林 快次

写真提供
広報課 学術国際広報担当

私は、恐竜大好きな子どもたちに囲まれて研究しています。難解なことを難しい専門用語で表現するのは簡単なことです。ただ、それでは一般の方には理解できない“外国語”に過ぎず、情報の意味やその重要性、そして楽しさは伝わりません。コミュニケーションの最大のチャレンジは、知識ゼロの人たちが理解できるようにその面白さを説明することです。いかに噛み砕いて、情報の質を落とさず伝えることができるのか。これを習得すると、サイエンスの醍醐味そして重要性を子供達だけではなく社会全体に伝えることができます。そうすれば、難解だと思われていたサイエンスが、魅力あふれたコンテンツであり、私たち社会において欠かせないものである、そしてSDGsにも直結するということが肌で感じてもらうことができるようになります。それと同時に、あなたの社会の中での役割が明瞭になり、自身の存在価値を見出すこともできるのです。CoSTEPは、皆さんのコミュニケーション能力を向上させ、これまで以上に社会貢献ができるようになる場所なのです。

教員紹介



科学技術コミュニケーション
教育研究部門 部門長／
大学院教育推進機構 准教授
奥本 素子

教育工学、
インフォর্মルラーニング、
活動評価



科学技術コミュニケーション
教育研究部門 副部門長／
特任講師
池田 貴子

野生動物と社会、
人獣共通感染症、
サイエンスビジュアル
ゼーション



特任講師
朴 炫貞

現代アートと科学、
映像デザイン、
地域連携と国際交流



特任講師
古澤 正三

外来種問題、
教育、
情報



特任助教
大内田 美沙紀

サイエンスイラスト
レーション、
インフォグラフィックス、
動物解剖学



特任助教
宮本 道人

サイエンスフィクション、
ヴァーチャルリアリティ、
インバージョン



博士研究員

福浦 友香

メディアデザイン、観光、
ビジュアル・
コミュニケーション



博士研究員

寺田 一貴

薬科学、
生命科学、
動画



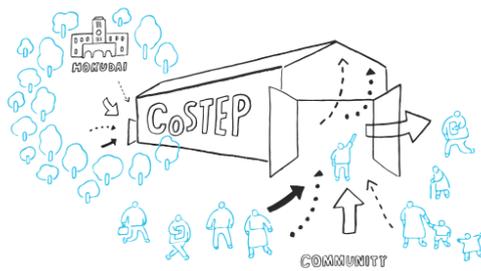
客員教授／
羽衣国際大学教授

早岡 英介

科学番組、
フィールドワーク映像、
ドキュメンタリーの制作

他の研究機関、行政、地域のみなさんと連携・協力して、研究・活動を行っています。

CoSTEP (コーステップ) について



CoSTEP (Communication in Science & Technology Education & Research Program) は、科学技術コミュニケーションに取り組み、北海道大学の教育・実践・研究組織です。科学技術コミュニケーションの教育・研究・実践を有機的に関連づけつつ、学内外の機関と積極的に連携し、科学技術コミュニケーション活動を担う人材「科学技術コミュニケーター」の養成を行なっています。



修了生の活躍の場

科学技術コミュニケーターとは、特定の職業をさすものではなく、科学技術の専門家と市民とのあいだを橋渡しする人のことです。自分の立場や視点で、自分にできる、もしくは求められる科学技術コミュニケーション活動を行なう人をさします。社会の多くの場面でそうした人材が求められており、全国津々浦々の大学・研究機関、教育機関、科学館・博物館、マスコミ・出版社、官公庁や自治体、NPO、そのほか民間企業などで、修了生が活躍しています。

大学・研究機関・官公庁

JAMSTEC JST
JAEA 理化学研究所
京都大学 IPS 細胞研究所
国立環境研究所 気象庁
北海道大学 東北大学
大阪公立大学
など

マスコミ・出版社

北海道新聞
朝日新聞 講談社
小学館 ニュートンプレス
メディカル・サイエンス・
インターナショナル
NHK FM 北海道
など

科学館・博物館ほか

日本科学未来館
国立科学博物館
札幌市青少年科学館
丹青社 乃村工藝社
NTT ドコモ JA
JICA NEXCO
など



北海道大学 大学院教育推進機構 オープンエデュケーションセンター
科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP)
〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 phone / fax : 011-706-5320 (代表)
e-mail : costep_office@ml.hokudai.ac.jp https://costep.open-ed.hokudai.ac.jp

修了生のこえ



2019年度 選科B 修了
(ライティング)

薩摩川内市館ミュージアム
恐竜化石等準備室 学芸員

山下 大輔

新しい世界の見方、魅力的な人に出会う場所

私にとって CoSTEP は、「新しい世界の見方を知れる場所」でした。その魅力を2つ紹介します。1つは、全国でユニークな実践している先駆者の話を聞けることです。講義は毎回、個性的かつ魅力的な内容で、自分の固定概念が崩れていく感覚を何度も味わいました。その1つが、「差の湯の会」という実践例です。これは、「無関心層は科学技術コミュニケーションの場に出てこない」という研究結果をふまえ、他分野を絡めたイベントを通して、無関心層を引き込むものでした。会場の茶室は、参加者だけでなく科学者も不慣れ、尚且つ狭い空間にすることで、どちらも優位な立場に立ちにくく、初対面でも対話が生まれやすい環境を作っているように思いました。この設計は目から鱗でした。私は普段、鹿児島県の鶴島にある博物館準備室で教育普及や広報活動などを行っているのですが、差の湯のような、場をデザインするという視点も取り入れていきたいと考えています。2つ目は、仲間との繋がりです。選科Bでは全国から集まった、モチベーションの高い仲間たちと、3日間で集中的にライティング技術を高め合いました。自分の文章を目の前で人に読んでもらうピアレビューは、繰り返すうちに文章がブラッシュアップされるのを感じました。講義後も、カフェに集まって意見交換を行う中で仲間意識が生まれ、今でも連絡を取り合う仲が続いています。科学の話題をじっくり話せる仲間が全国にいるというのは、今後も貴重な財産です。ぜひ皆さんも CoSTEP を通して、新しい世界の見方と魅力的な人々に出会ってみてはいかがでしょうか。



2018年度 本科修了
(対話の場の創造実習)

日本科学未来館
科学コミュニケーター

岩澤 大地

なにより皆さんの視座で

科学技術コミュニケーションって、何ですかね。そう聞かれたとき自分は「人と人をつなげる場をデザインすること」と、最近では答えています。でも、他の CoSTEP 修了生に同じ質問をしても、ぜんぜん違う答えが返ってくると思います。CoSTEP では、さまざまな実践をし、たくさんの人の考えや価値観に触れました。その知識や体験を受講生それぞれの視点で解釈することで、その人自身にとっての科学技術コミュニケーションの意味や価値が見えてきたんだと思います。私は現在、お台場にある日本科学未来館で働いています。CoSTEP での学びから、特に人と人を繋げる“場”のデザインに強く意義を感じたため、仕事でも展示を設計したり、イベントを実施したりして、人と人をつなげています。たぶん、科学技術コミュニケーションの辞書的な意味を知ることには大した価値はありません。みなさん自身にとっての科学技術コミュニケーションとは何か。CoSTEP での多層的な学びを通して、その答えを見つけてみませんか？



2020年度 本科修了
(ソーシャルデザイン実習)

good food, good life 代表／
ノーステック財団 産学連携
コーディネーター

和田 順子

漢方薬みたいな CoSTEP

「たぶん、和田さんには CoSTEP が合うと思うんだよね。」知人の CoSTEP 卒業生にそう勧められ、私の1年間が始まった。十数年ぶりの授業やレポート提出に追われることすらうれしく、若い学生達の優秀さに驚き、インプットしたことを腹落ちさせアウトプットしていく一連のサイクルに脳が喜ぶのを感じ、忙しく夢中な時間を過ごした。濃密だったがゆえに、卒業直後は心にぽっかりと穴が開いたようだった。さらには自分が1年かけて得てきたものの正体ははっきりとわからず、不安が襲った。でもライフワークであるフードロス削減の活動や、産学連携の仕事の中で「この瞬間はすごく CoSTEP !」と感じることがとても多いことに気づいた。何かを伝えるときのわかりやすさと正確さのバランス、誰かを巻き込みたい時のアプローチ方法、コミュニケーションにおけるわかり合えなさ。そうした壁を、1年間で得た知識と経験で鮮やかに乗り越えることは、残念ながらできていない。でも、実習だったらどう解決したか、あの子だったら、先生だったら何言っただろう、そう考えながら向き合う時間はさしずめ「ひとり CoSTEP」であり、私の中ではまだずっと CoSTEP が続いているのだ。私に受講を勧めてくれた人も、そんな風に日々のなかで CoSTEP を感じていたのかもしれない。「漢方薬のようなじわじわ感で体質改善」。私が CoSTEP を表すならそんな感じだ。

